

### 3 魅力と活力ある地域づくり — 都市アイデンティティの確立を —

主要都市の魅力度を調査した「地域ブランド調査2013」によれば、本市は203位。これまでも、都市イメージの薄さや魅力の乏しさが指摘されてきましたが、いかに魅力ある「選ばれる都市」を目指すのか？

現在本市では、「都会と自然が並存する都市」「国際コンベンションと田園、漁場が並存する都市」「東京都市圏とは一線を画し独自の価値観を提示できる千葉市」などを掲げ、人工海浜や中央港における海辺の活性化や幕張新都心を中心とした“にぎわいづくり”や積極的な企業誘致、子育て施策の拡充などに取り組んでいます。

さて本市の町の始まりは、大治元年・1126年、千葉常重が亥鼻城に本拠を構えたこととされておりますが、

それ以前の歴史については加曾利貝塚を除けば然程語られておりません。また、それ以後にあっても市民に広く認知されているような語り口は整理されておりません。そこで今回は、本市の歴史の更なる深堀を求めました。

それ以前の歴史については加曾利貝塚を除けば然程語られておりません。また、それ以後にあっても市民に広く認知されているような語り口は整理されておりません。そこで今回は、本市の歴史の更なる深堀を求めました。

市長からは「古代から続く本市の歴史の中で、そのはざまに埋もれ、まだ開花していない魅力ある地域資源についても改めて振り返るとともに広く誇れる形に磨きあげ、都市の魅力向上につなげてまいりたい。」との答弁がありました。今後の取り組みに期待です。

なおその他、女性、若者の活躍の場づくりについても質疑を行いました。



### 4 支え合う地域社会を — 地域包括ケアシステムの強化、充実を —

あと10年もすると団塊の世代の方々が後期高齢者となる2025年問題を迎えます。厚労省の推計では、3人に一人が65歳以上、5人に一人が75歳以上になるとされております。また、単身世帯の増加に伴う高齢者の社会的な孤立化は既に表面化しております。そうした事態をふまえ、市内それぞれの地域の中に「支え合う」という仕組みをいかに効果的かつ効率的に根付かせていくのか？自助、共助の力を最大限に活用した支え合いの地域社会づくりが急務であります。

さて、それらを背景に現在、地域の実情に合わせた“地域包括ケアシステム”（高齢者が地域で医療、介護、生活支援サービスなどを一体で受けられる仕組み）の構築が求められております。

本市の地域包括ケアシステムについては、「あんしんケアセンター」がその中心拠点となっておりますが、地域への浸透はいまだ道半ばといった状況にあります。

そこで、①圏域の見直しを含む“あんしんケアセンター”の増設、②医療・介護の更なる連携促進、③多様な主体による重層的な生活支援サービスの創出の3点を求めるとともに、同ケアセンターを統括し実態把握や課題分析などを行う専門部署の設置を訴えました。

市長からは「地域の実情に応じた体制をつくるためにはセンターの増設が必要であると考えており、圏域

についても見直しを図っていく。」「医療・介護の連携強化を図り、生活支援サービスの担い手となる新たな団体の掘り起しと育成に向けた支援を行う。」「これまで以上にきめ細かく各センターを支援していけるような体制整備に努めていく。」との答弁がありました。一歩前進です。

なおその他、NPOの育成・支援の強化、ソーシャルビジネスへの支援拡充についても質疑を行いました。

